資料－1

第３回　丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会

日時：令和４年９月 22 日(木)
10：00～
場所：丸森まちづくりセンター
２ 階　大集会室

次　　第

１　開　　会

２　前回のふりかえり（第２回検討部会の意見交換／総務課）

３　（仮称）川の駅（水防センター＋観光交流センター）ブロックプラン

（自由討議）
○ 水防センター（機能・規模）
①観光機能・規模・特色の持たせ方
②防災機能・規模
※ 施設デザインの配慮事項

４　河川防災ステーション計画への要望

（自由討議）
① 「るんるん号」の乗降場と新しいルート
② 子供の居場所・遊び場としての日常利用を図る
③ 備蓄資材周りのコンセプト、植樹可能エリア

５　トレイルルートの整備

（自由討議）
① かわみなとフットパス（散策路）
② 川風トレイル（広域連携ルート）
○ 事業化にむけて（かわまちづくり、町事業、町民参加の整備・利用・管理）

６　その他（参考資料等についての意見があれば）

○ 参考資料－１　水辺の楽校整備計画
○ 参考資料－２　サップ・カヌー･ラフティングの可能性
○ 参考資料－３　対岸の高水敷の取り組み

７　閉　　会
・次回（10 月）の日程調整

第２回検討部会（2022/8/22）の意見交換

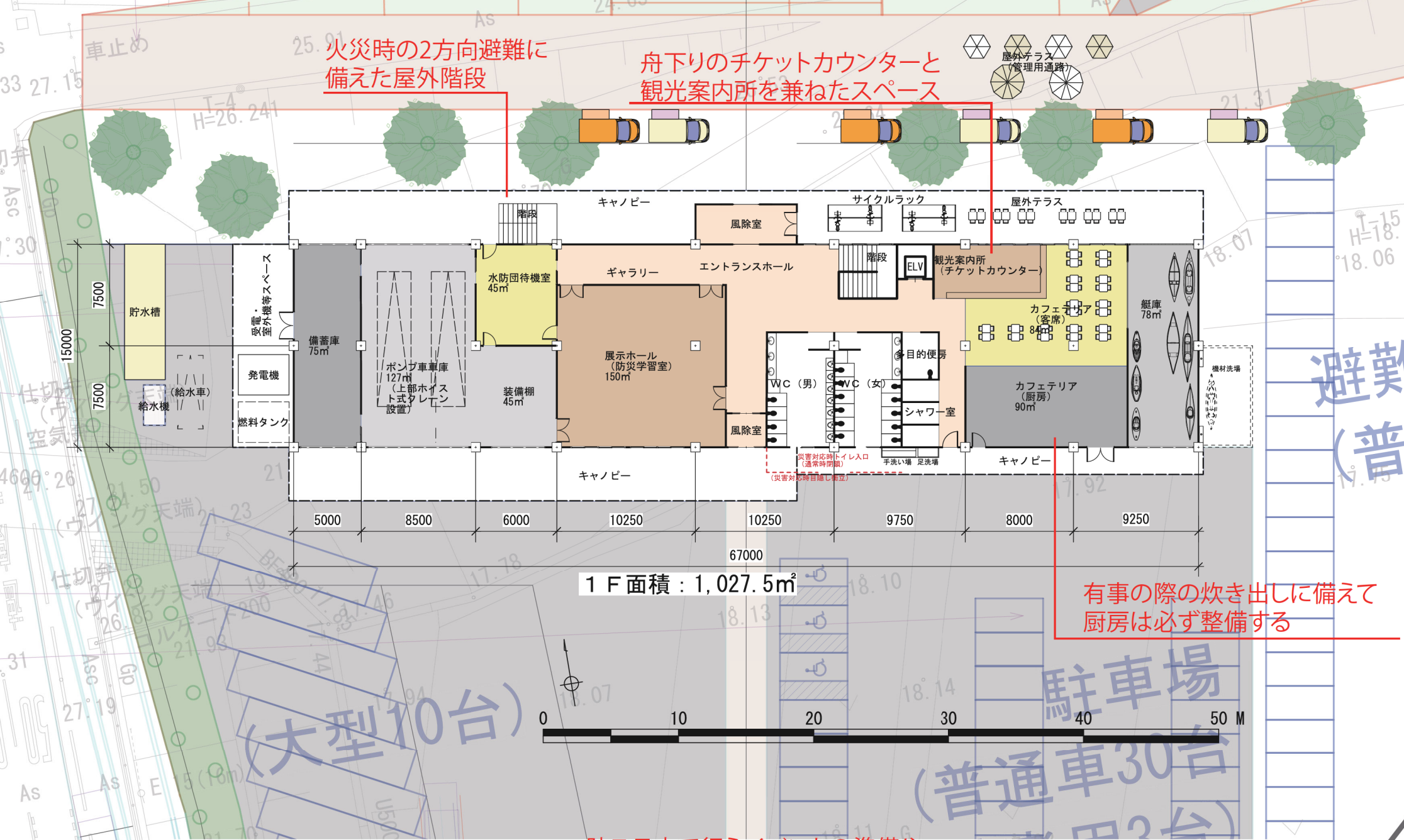
大分類	小分類	説明（●）・意見（〇）
１．丸森の中心街の観光戦略、観光交流センター･水防センターの役割およびフットパス（川風トレイル）	中心市街地の活性化	●現在の県道、主要地方道の丸森霊山線と町道の鳥屋竹谷線の機能の交換により齋理屋敷前のところを町道化し、寺角商店の交差点から商工会までの区間を車道境界のコンクリートブロックの撤去や、カラー舗装化、電力柱と電信（電話）柱の共用化、さらには、通りに面した住宅や店舗等の外観を統一することで街並みの散策エリアとしての整備を計画している。（商工観光課） 〇中心市街地との連絡を保つように、阿武隈急行に対応できる「るんるん号」を活用した防災ステーションへのバスルートを検討する。
	本課題についてのとりまとめ（平野部会長）	〇新しい生まれ変わりの演出をしながら、舟下りの発着場を河川防災ステーションに移す。 〇拠点の演出方法は、 ① サップ、カヌー、ラフティングなどの水上レジャーの展開 ② 特色ある飲食店１店（丸森でしか味わえない、若い女性に受ける）の開設 ③ リピーターを確保するために、阿武隈川を上流から下流まで楽しめるフットパス「川風トレイル」をみんなで整備する。できれば広域連携で亘理の「鳥の海」温泉まで。
	舟下りの発着場を河川防災ステーションに移す	〇船着場は、防災ステーションに集約したい。 〇位置を変更するのであれば、運用の仕方もセットで議論すべきである。 〇建物は除却して、船の降り場として利用する。階段護岸は壊さないでそのままにしておく。 〇阿武隈ライン舟下りは生まれ変わりましたっていうふうに、いきなり全部変わるように仕掛けないと、あのイメージのまま変わらない。 〇いずれにせよ移転は良いタイミングなので、そこで本気で生まれ変わりましたというイメージチェンジと、それに見合った単価をちゃんと上げる、そのように新しいビジネスのやり方に切り替えられると良い。 ●管理の候補者として３つを考えている。①公社、②商工会（事務所として入りたいという希望がある）、③伊具緑化（芝生広場などの管理）の３者である。３者が、個別に携わるのか、あるいは新しい団体を立ち上げるのか、方法はいろいろ考えられる。（総務課） 〇２年の期間があるから、考えてほしい。新法人作って、その新法人が運営する形にする。新法人を作るときに、代替わりもすればいいのではないか。
	サップ、カヌー、ラフティングなどの水上レジャーの展開	〇サップ・カヌーの新しい展開に期待。 〇富野駅か兜駅からラフティングができないか？ 〇できますね。兜駅からあぶくま駅でもいい。 〇景色もすばらしい、阿武隈川の狭窄部分ってものすごいポテンシャルがある気がする。
	河川防災ステーションの飲食物販機能	〇前回、半澤さんが話してくれた「Ａ２牛乳（おなかがごろごろしない牛乳）」のようなスペシャル感があるテナントが必要である。 ●フルーツサンドで人気のある「MARUMORI CAFÉ」、舘矢間にある「カワカフェ」などを候補として考えている。（総務課） 〇若い女性が来たいと思う店であることが条件のひとつ。ここでしか食べることができない、ここにしかない食材を提供できることがもう一つの条件。 〇テナントに入る人たちの自助努力だけではなくて、入ったからには全力でサポートするよう町を挙げて取り組むことが大切。 〇店舗を複数入れるやり方とキッチンカーをいくつか集めるやり方があると思う。お店は 1 店舗でもキッチンカーの利用で 2 店舗にも 3 店舗にも増やすことができる。キッチンカーが平時に来ていると、災害時にも応援に来てくれる可能性がある。 ●施設内に厨房ありの店舗が１軒はほしい。有事の際に炊き出しをしてもらうため。（総務課） 〇キッチンカーは週末には３から４台、平日は１台のように幅を持たせるやり方もある。 〇１店は単価が高いお店、安く済ませたい人はキッチンカーを利用、という組み合わせがいい。

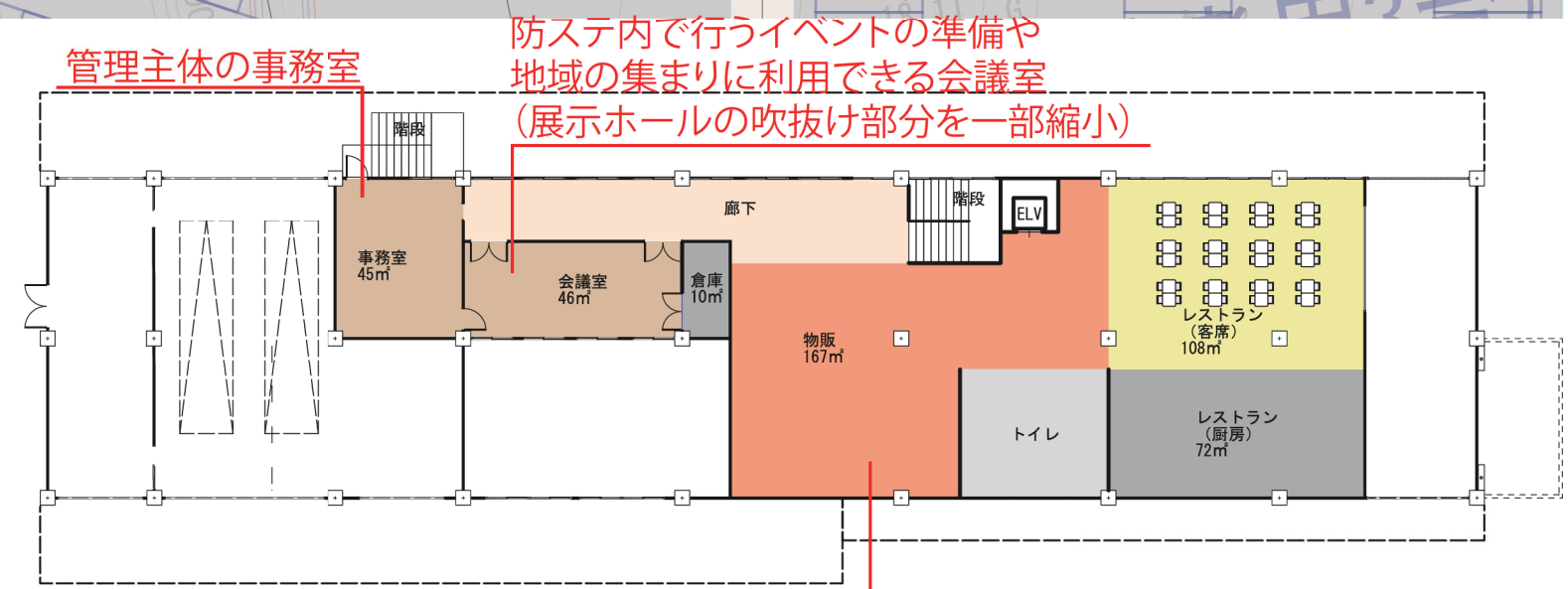
大分類	小分類	説明（●）・意見（○）
１．丸森の中心街の観光戦略、観光交流センター・水防センターの役割およびフットパス（川風トレイル）	川風トレイル（できればロングトレイル）	○トレイルは、利用者は少ないかもしれないが、みなさん歩くので滞在時間はかなり長い。 ○プロ級の人は自分で食料を準備するが、アマチュアの人は歩く途中で食事したりお土産買ったりしてくれる。リピーターも多いので面白かったらまた歩こうとなり、観光としては案外可能性があると思う。 ○トイレを設ける。いろいろなコースを提供する。 ○阿武隈沿川を歩くロングトレイルを考えてみてはどうか。ただし堤防沿いだけではつまらない。例えば、亘理の温泉（鳥の海）がゴールのような広域連携を視野に入れたルートなどを考える。 ○トレイルは、町と町民が協力して、「道普請」のような考え方でお金をかけずに造る。
	右岸のフットパス	○丸森大橋から丸森橋までの間、すごく大事だと思う。「これお城だったんだ」って川を見ながらの方が絶対楽しい。河川環境整備事業か何かでここの川べりをもっと快適に楽しく歩ける場所にするのがポイントのような気がする。 ○水辺の散策路、特に右岸側は、これ丸森町にとって肝でしょ。舟運としても歴史的にも多分ここのところがすごく肝で、しかも、渡し船３ヶ所という話、それが大事なお城側の交流拠点だったわけで、右岸側のこのフットパス相当な部分を河川の（国の）方でどこまでできるのか、できないところを町がどこまでできるのか、できないところをみんなで作ろうみたいな話として、この水辺の魅力をバージョンアップしていくと。今普通に車で走ってると特にこの辺は、途中までなんとなく綺麗に見えても、結局パラペットの向こう側で見えなくなっていて、なんか近づき難いような場所にしか見えない。すごいもったいないんだよ。歴史的に結構重要な魅力だと思いますので、この街にとって、ここがもうちょっと活用できるようなことも考えていただけたらと思う。 ○そうですね。歩いてみる価値あります。 ○必要ですよね。
	MARUMORI-SAUNA　２	○フィンランドサウナとは、サウナに入る前にどう過ごすか、サウナの中でどう過ごすか、出てからどう過ごすか、全部の体験がサウナだという考え方です。 ○計画地は、サウナに入る前に、トレイルを楽しんだり、自転車でサイクリングしたり、歴史に触れたりとか、いろいろなコンテンツ作れるのではないかと思った。 ○サウナ終わって、町内の飲食店に行って、民泊や旅館に泊まって帰ることも可能になる。 ○２Ｆの方がいいですね。見晴らしもいいし、ここのロケーションの良さは風の抜け感かなと思う、川沿いの。 ○一旦こっち（防ステ）でもうちょっとグレードを落として、ロケーション気持ちいいね、風きもちいいねみたいな体験をすると、おそらくトレイルとか、キャンプ場とか、そういういろんなアクティビティにももうちょっと入りやすい環境に繋げられると思う。 ○秀一さんがサウナ棟を純民間建築として立てるっていうのもありかな。もちろんしかるべき枠組みを作ってね。 ○水防センターに取り込むんじゃなくて、別棟でするのもありだっていう。 ○相乗効果が出る。水防センターに入れると設計が難しくなる。 ○癒し系が今のキャンプ場のところで、こっちはもっとアクティブですよね、SUP やったりとか。アクティブな活動のストーリーの最後にサウナがあってっていうような。 ○単価も差別化して、もう少し安くするとか。エントリーレベルで。 ○前回、純粋に水防センターでもいいんだよっていう話をちょっとしましたけど、今の話でどんどん充実させて、わざわざ来てもらえる場所にきちんと作っていこうという方向性を、町の総力を挙げてやっていこうと。ざっくりまとめるとそういう世界かと思います。
	防災ステーションの植栽について	○防災資材の必要性は理解するが、平常時には緑で隠すことも必要だと思う。 ○芝生広場やマルシェの会場も炎天下にいるような状態になる。訪れた人が居心地よく過ごせるような緑の導入が必要だと思う。 ○防災資機材の際のＬ字部分は、土塁を設けその上に中低木の植栽を入れて、目隠しをするなどの工夫がほしい。 ○芝生広場についても、防根シートで囲って高木が育つだけの土を確保して、緑陰をつくってほしい。日常利用を考えると木陰ゼロは厳しい。 ○ヘリポート周辺やマルシェの会場についても、木陰をつくる工夫を検討してほしい。

大分類	小分類	説明（●）・意見（○）
１．丸森の中心街の観光戦略、観光交流センター・水防センターの役割およびフットパス（川風トレイル）	防災ステーションの日常利用	○ここの広い空間を活用した、広い滑り台、好きに遊びなさいみたいな空間だと面白いかなと思う。3 割堤だと滑らないので、2 割堤がいい。 ○町内でも同年代だったり、女性だったり、丸森で次世代の子供さんたちの遊ぶ遊具がないよねという話になる。子供の保育所の帰りにちょっと遊ばせて一時間二時間とか、そういうようなとこが少ない。学校も丸森小学校、舘矢間小学校は近くにあるので。 ○学生さんは、基本スクールバスとか乗りっぱぐれてしまうと行くとこないんです。 ○勉強して待っていられるような都会のファミレス使い、受け皿がない。 ○高校生然り、町内の大学生も、家以外の居場所がない。そういった部分があると結構、もっと活用性っていうか平常時、平日の活用ができるんじゃないかなと。 ○石田沢の防災センターがテレワークできるように個人個人の机が置いてあるんですよ。そこには何人か利用者いました。貸し出ししているので。 ○居場所のない高校生は確かにたくさんいるよね。ちょっとそれは施設配置のときに参考にさせていただいて、検討していきましょう。学習展示のゾーンを作らなきゃいけないので、その無料コーナー絶対必要ですから。ありがとうございます。
２．対岸の高水敷を含めた新たな展開		●これまでは、河川管理者が高水敷の樹木を伐採し処分していた。最近、実際に使いたい方に伐採をお願いし、伐採した樹木等を持ち帰っていただくというようなやり方が増えてきている。この場所につきましては、伐採を公募により行いまして、例えば伐採はチェーンソーを利用した訓練に利用するというやり方は可能である。（国交省） ●樹木の伐採については、民間でやるか、国交省の工事でやるか、調整は可能である。（国交省） ○下流の高水敷は国交省さんが樹木を伐採し、（半澤さんの酪農組合が）牧草地として利用している。対岸も同じようなことができないかと思っている。牧草地だけではなく、春に菜の花・夏にひまわりを咲かせたいと考えている。 ○景観のために姿形の良い木は残す。点々と下草がない高木の姿は結構美しいですので、そういう姿を残してハゲ山にはしないようにしましょう。 ○河川管理者が上手に伐採してもらった上で民間利用するっていう方がよい気がします。そこも含めてご検討いただきたい。
３．水辺の楽校の展開		○水辺の楽校をつくる内川は、サケが上る。川遊びには最高の場所だと思う。サケの遡上を見る、放流もする、そういうことは子供にとって良いこと、実際の川でやっているから。ここは、桜づつみから遊びに来てもいいし、河川防災ステーションから遊びに行ってもいい良い場所だ。 ○ここ二、三年、台風の後、だいぶサケの遡上がほとんどないような状態である。濁り水が一番の天敵、サケにとっては。内川はほとんど遡上してないが、阿武隈本流は遡上している。 ○台風前は年に 1 回、小学生が 4 月に稚魚の放流をやっていた。近場で親水公園的な施設があれば、安全に小学生に体験をさせることができるので、このような整備を期待する。 ○飛び石のところに、板でもさしてそのときだけ水溜めるようにすると、着衣水泳などができるようになる。 ○内川の川の特性（水理条件、地形条件など）を踏まえて、維持管理が容易な計画案を作成してほしい。

「（仮称）川の駅（水防センター＋観光交流センター）
２階建てとした場合のブロックプラン（参考エスキス例）S≒1:350

管理主体の事務室・会議室スペース、観光案内所（やまゆり館）機能、物販のバックヤードが不足しているため、
2階建のブロックプランを作成





２Ｆ面積：600.4㎡

延床面積：1,627.9㎡

ロケーションを活かしたサウナ施設
2Fはレストランではなくサウナがよいか、屋上でテントサウナとするか

資料－3

第３回 丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会
＜説明資料＞

－ 目次 －

３．水防センター2階建てブロックプラン＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿別紙

４．河川防災ステーション計画への要望＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿1

・要望の一覧 + イメージパース＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿1

①バス「るんるん号」の乗降場設置＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿2

②子どもの居場所・遊び場としての日常利用＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿3

③防災ステーションの資材の見え方、植栽＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿4

５．トレイルルートの整備＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿5

①かわみなとフットパス（散策路）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿5

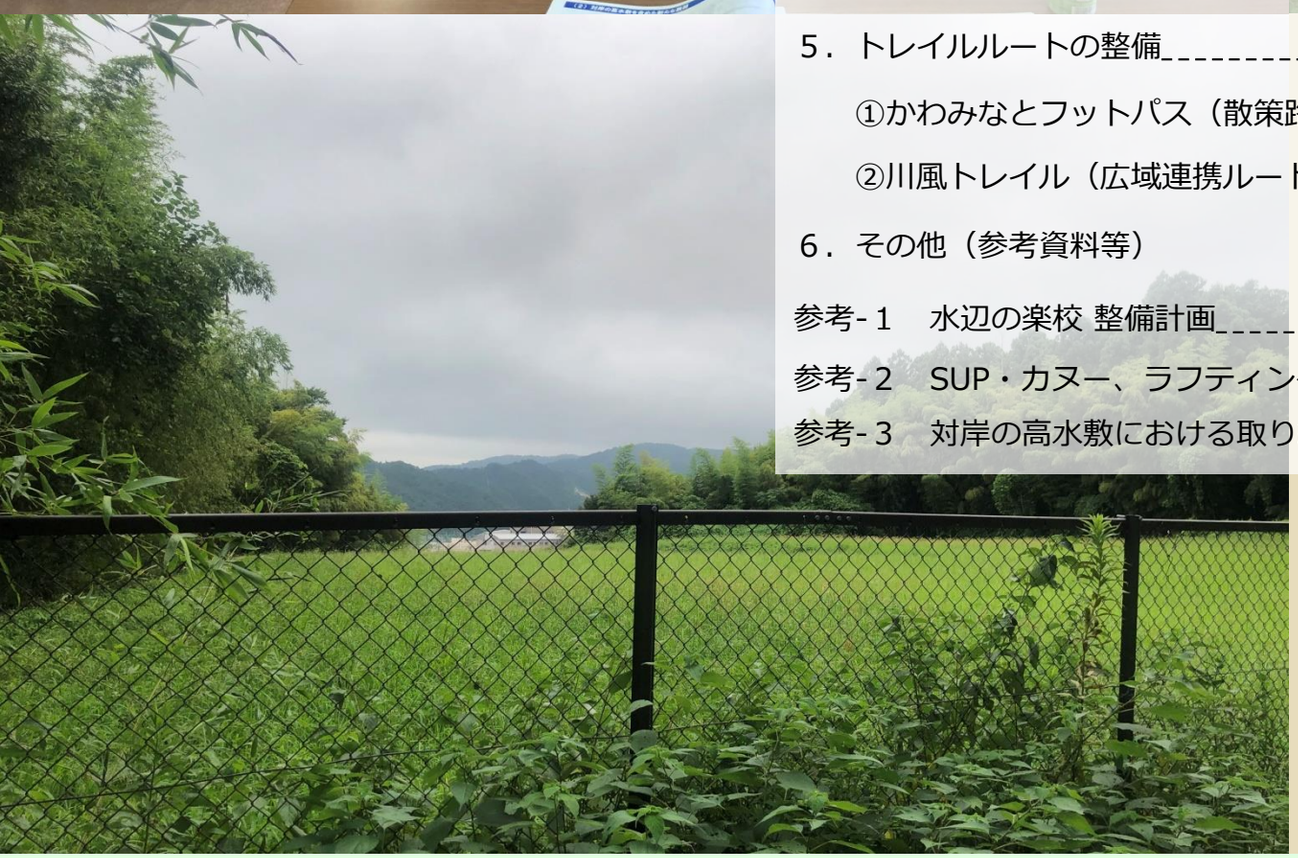
②川風トレイル（広域連携ルート）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿6

６．その他（参考資料等）

参考-１　水辺の楽校 整備計画＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿7

参考-２　SUP・カヌー、ラフティングの可能性＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿8

参考-３　対岸の高水敷における取り組み＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿１０



令和４年９月２２日

丸森町 ・ 国土交通省 東北地方整備局仙台河川国道事務所

4．河川防災ステーション計画への要望　（イメージパース）

- これまでの検討部会で、河川防災ステーション整備計画に対する要望が、3点挙がっています。

① ウィークエンドバス「るんるん号」の乗降場を設ける

② 子どもの居場所・遊び場としての日常利用を図る

③ 設えの工夫（災害復旧用の備蓄資材の見え方、植栽を増やし緑陰を確保）

芝生広場

公園・緑地、イベント会場、スポーツ広場としての利用

水防センター・観光交流センター

防災学習の場、飲食・物販スペースおよび阿武隈ライン舟下りの拠点としての整備を検討

居久根の再現

水防センターの北西

川の駅

河川敷公園としての利用

眺望広場・プロムナード

阿武隈川の眺望を楽しめるスペース

イベント広場

マルシェや軽トラ市等を行えるイベント広場

ポケットパーク

既存樹木を保全
休憩施設の設置を検討

水辺への動線（階段・スロープ）

チケット売り場のある水防センターから船着場まで、階段・バリアフリー対応のスロープを整備

阿武隈ライン舟下り船着場

階段状の船着場整備を検討

4. 防ステ計画への要望　①バス「るんるん号」

- 河川防災ステーションに、ウィークエンドバス「るんるん号」の乗降場を設ける
- 防災ステを経由する新しいルートとしたい

丸森駅

サイクルトレイン

阿武隈ライン舟下り
観光交流センター

丸森橋
百々石公園からの眺望

丸森大橋

丸森町観光案内所 やまゆり館

八雄館

齋理屋敷

阿武隈ライン舟下り	TEL:0224-72-2350
丸森物産いちば 八雄館	TEL:0224-72-3188
金八寿司	TEL:0224-72-2167 FAX:0224-72-2356
焼肉弁慶	
中華料理 ポン友飯店	
おいしい季節料理「わた福」	
食堂 白木屋	
日本料理 桜坂	
なるほどら一めん	
まんま亭 楽	
食堂 浪花屋旅館	TEL:0224-72-1007
栄泉堂	TEL/FAX:0224-72-2492
志白屋	TEL:0224-72-1038
あこがれ広場 えがお	TEL/FAX:0224-87-8778
カフェ ベルシッカ	TEL:0224-51-8677
地域交流拠点まどい	TEL:0224-86-3824
ジェラテリア ラ・フェスタ	TEL:0224-72-1785
素泊まりの宿大槻屋 SANGE	TEL:0224-72-1046
陽だまり工房	TEL/FAX:0224-75-2852（安島宅）
移住・定住サポート（じゅーぴた）センター	TEL:0224-87-7837
ギャラリーショップ草舟	TEL:0224-51-80[illegible]

レンタサイクル

旧丸森郵便局（ギャラリー草舟）

鳥屋嶺神社

阿武隈川展望台
（台町古墳群）

台町古墳群

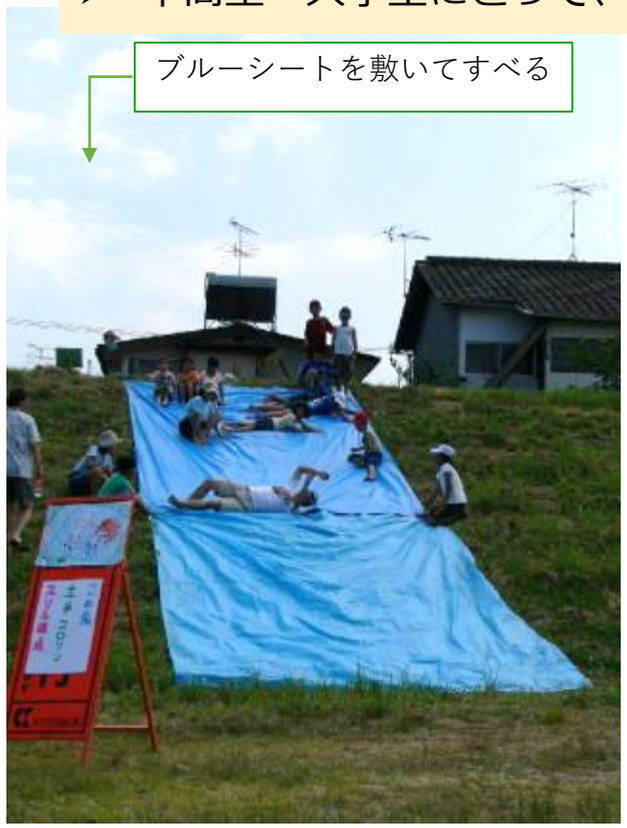
愛宕神社

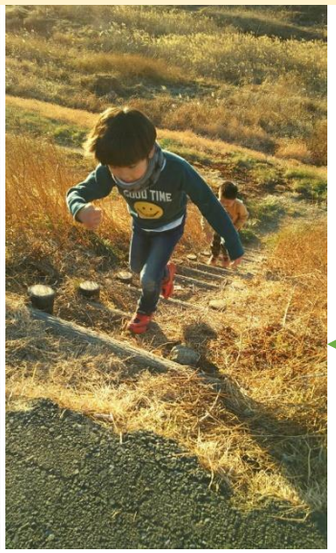
丸山城跡

4．防ステ計画への要望　②子どもの居場所・遊び場としての日常利用

- 子育て世代や小学生が気軽に利用できる遊び場が欲しい
- 防ステ計画地の開けた雰囲気を活かし、段ボールやござを使って堤防の法面を滑り降りる
- 中高生・大学生にとって、学校と自宅以外の第３の居場所になるとよい

ブルーシートを敷いてすべる





放課後等デイサービス児童発達支援ぽんて（@埼玉県坂戸市）

法面を上ることも可能だが、階段の近くであれば遊びやすい

川リンピック（H18.8.6@阿武隈川・渡利水辺の楽校）

子育てセンターしばもと（@埼玉県坂戸市）

【参考】自由な遊び方ができる公園整備の事例
マッシュパーク女川

※町内の別の場所で遊び場整備を検討中

土手すべりをイベント化する

荒川で土手すべり（@荒川・東京都足立区）

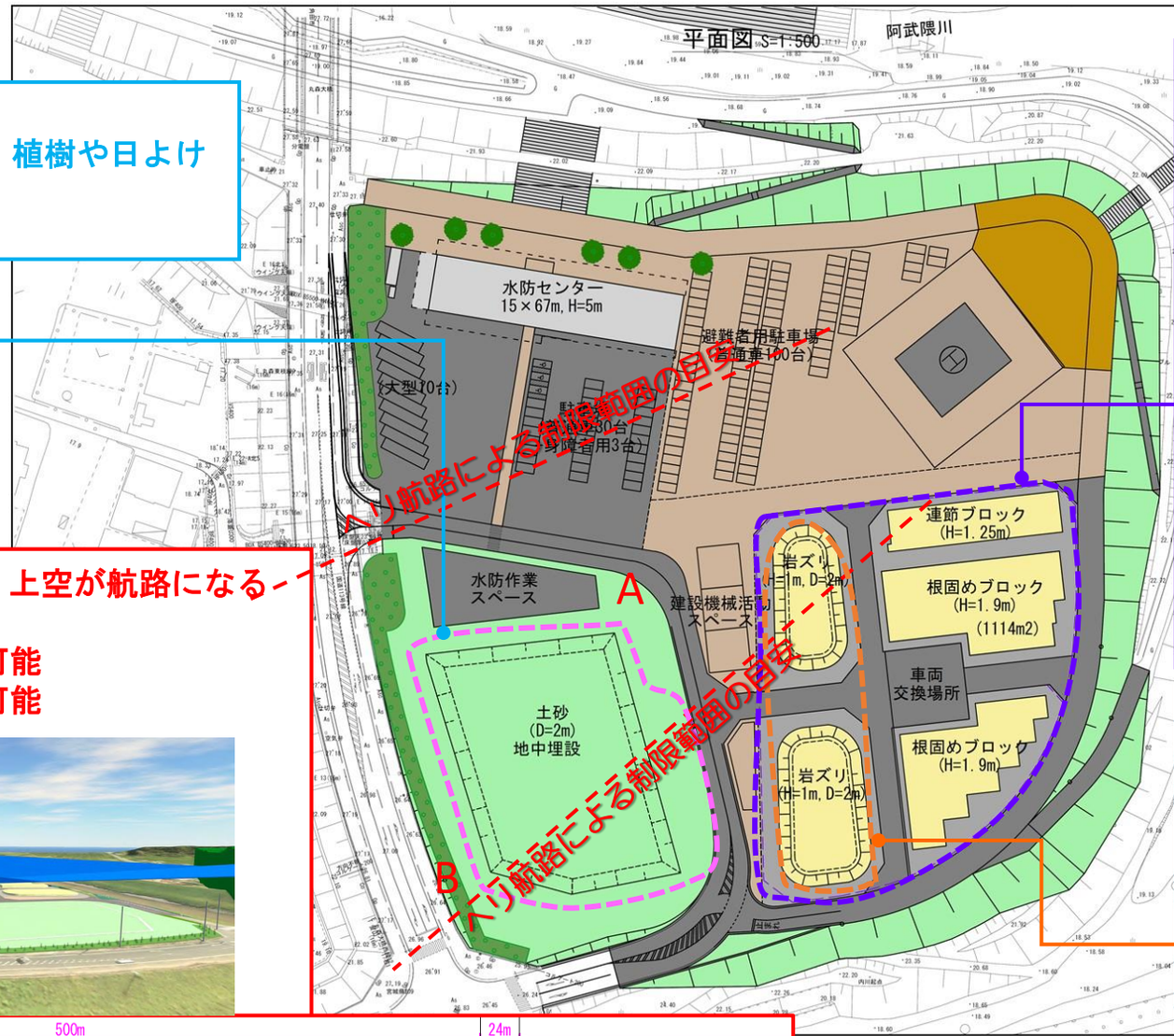
安曇野市立明科北認定こども園
（@犀川・長野県安曇野市）

４．防ステ計画への要望　③設えの工夫（資材の見え方、植栽による緑陰）

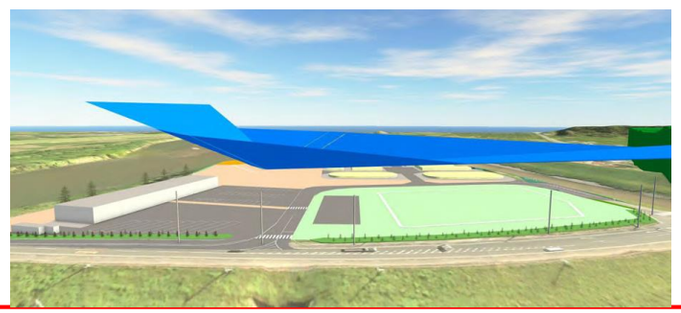
- 備蓄資材は、平常時の住民や観光客の利用を想定し、資材の見えを意識した配置、成形を工夫。
- 備蓄土砂は、地中に埋設し、上面を平常時利用可能としている。　⇒ 埋設範囲外には植樹や日よけ施設等の配置可能（下図①）
- 防災ヘリポートの航路により、上空制限がかかる。　⇒ 上空制限以下であれば植樹は可能（下図②）
- 備蓄土砂以外は、防災教育、啓発のため「見せる備蓄資材」として整備 ⇒ フェンスで囲って案内看板を設置（下図③）

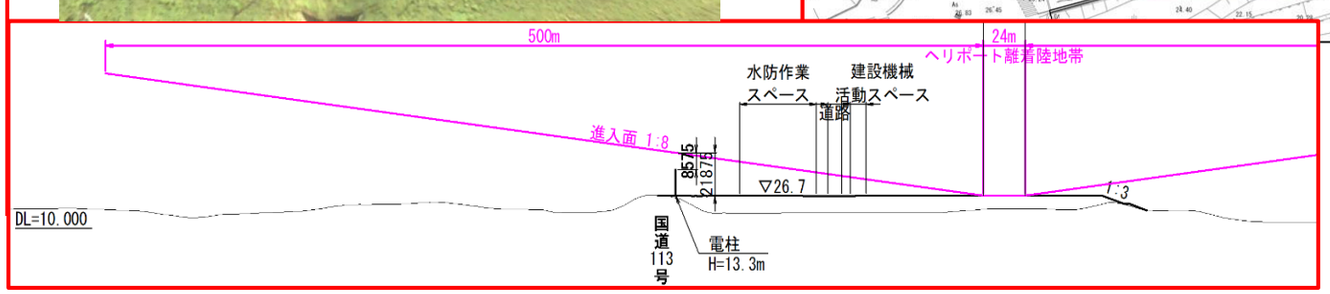
⇒水防センター、緑地からの景観上、主道路側には岩ズリを配置し奥側にブロック類を配置。人工物による圧迫感が出ないよう配慮（下図④）

①備蓄土砂埋設範囲外には、植樹や日よけ施設等の配置が可能



②ヘリ航路該当する区域は、上空が航路になるため樹木に高さ制限有り
A地点でH=約12m以下の植樹可能
B地点でH=約21m以下の植樹可能





③“見せる備蓄資材”で、防災教育、啓発に活用

④道路側には岩ズリを配置して、人工物による圧迫感が出ないよう配慮

5．トレイルルートの整備　①かわみなとフットパス（散策路）

- 鳥屋館、3ヶ所の渡し舟（細内、神明、赤ヶ崎）があった阿武隈川右岸は「丸森の歴史の肝」
- 「丸森橋～丸森大橋」を、丸森町の川湊・渡し・城跡・橋の歴史を訪ね歩く散策路『かわみなとフットパス』として整備し、町と川のつながりを学ぶ。
- 整備施設（案）：　散策路、休憩スペース、眺望広場、フラワーロード（花壇）　等

③ 鳥屋館

④ 丸森中学校

⑤ 階段（鳥屋館へ）

⑥ 鳥屋館跡からの眺望

① 船場地区から

⑦ 鳥屋館跡の散策路

② 丸森中学校脇の高水敷

⑧ 鳥屋嶺神社へ

かわみなとフットパス　約3km(徒歩約35分)

Ⓐ 河川防災ステーション・阿武隈ライン舟下り 乗船場 → Ⓑ 鳥屋館→ Ⓒ 船場地区（フラワーロード整備）→ Ⓓ 丸森橋→ Ⓔ 姥石→ Ⓕ 丸森大橋→ Ⓐ

5．トレイルルートの整備　②川風トレイル（広域連携ルート）

- トレイル愛好家向けに、『かわみなとフットパス』を拡張した広域連携ルート『川風トレイル』を検討
- 山元町で『みちのく潮風トレイル』と接続し、亘理町の温泉 鳥の海へ（約30km、所要時間6.5時間）
- 町内の県立自然公園をめぐる『丸森ロングトレイル』

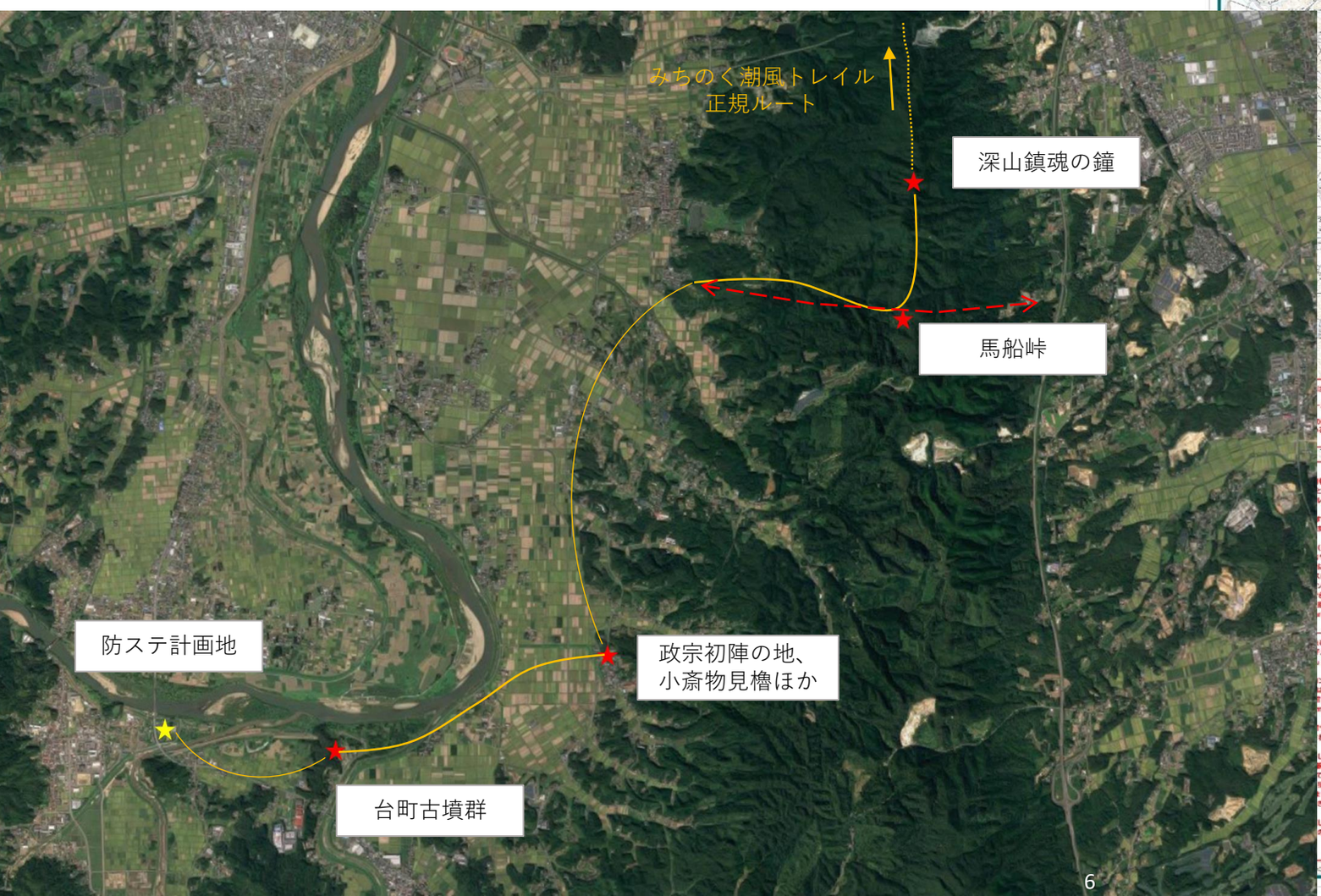
NPOみちのくトレイルクラブ　板橋さんより

【ルートについて】

- みちのく潮風トレイルは、潮風が感じられる沿岸をルートとしている
- 開通当初に無料配布していたマップには、正規ルート以外に各市町村の名所等に繋がる「寄り道ルート」も記載していた
- 現在、トレイルマップを販売している。また今年度内に公式ガイドブックの発行を予定している。

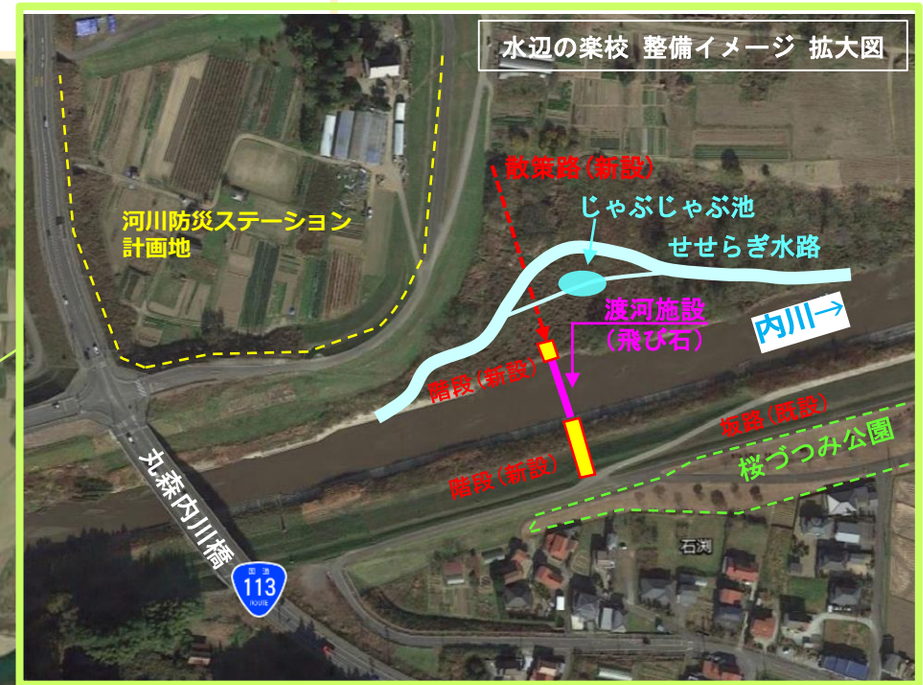
【利用者について】

- 利用者の目安としては、トレイルマップの販売数（マップ有料化の2020年10月以降で約5,500部）、全線踏破挑戦者/達成者リストがある。
- トレイルのルート上にハイカーがボタンを押す式のカウンターを設置しており、沿線4県28市町村の定例会議でその数値を共有している。



6．その他　参考-1　水辺の楽校 整備計画

水辺の楽校	子供たちが水とふれあい、学習できる場、川に親しみを覚える施設を整備
利活用メニュー（案）：	水遊び、環境学習、防災学習
整備施設（案）：	せせらぎ水路：内川から水をひき日常的に一定の水が流れる じゃぶじゃぶ池：常にある程度の水位を保つ 飛び石：河川防災ステーションと桜づつみ公園を結ぶ



水辺の楽校 事例
（阿武隈川、福島市渡利地区）

川リンピック（H18年8月、震災前）

６．その他　参考資料-2　SUP・カヌー、ラフティングの可能性　①東北地方のラフティング事業者

◻　RASTICA（ラスティカ）

https://www.rusticaoutdoor.com/asahi-rafting

◆　最上川（山形県朝日町）

所要時間：約3時間

料金：6,500円～7,200円

開催時期：4月末～7月中旬、8月末～10月末

拠点施設：旧送橋小学校（山形駅から車で35分、
JR佐沢線最寄り駅からは送迎サービスあり）

◆　胆沢川（岩手県奥州市）胆沢ダム下流

所要時間：約1時間半、約2時間

料金：5,500円、7,000円

開催期間：7月末～9月末

拠点施設：旧送橋

（水沢駅から車で30分、水沢江刺駅から車で35分）

◆　その他

・パックラフトのツアー、町内の農家民宿でのBBQや芋煮会とセットのプランあり

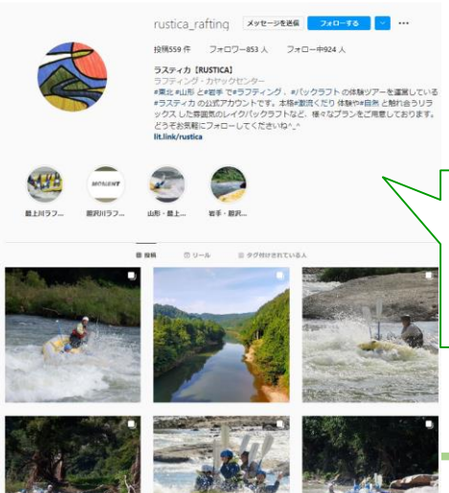
・各料金には併設・近隣の温泉施設入浴料金含む

・撮影写真無料ダウンロードサービスあり

・リピーター割引、学割、グループ割引（各500円引き）あり

パックラフト（一人乗りの
インフレータブルボート）

難易度別のコースを設定



Instagram　フォロワー853人
Twitter　フォロワー728人
Facebook　いいね1,765件
フォロワー1,795人
公式LINE　友だち137人

◻　Club Frog's（クラブフロッグス）

https://clubfrogs.localinfo.jp/

◆　胆沢川（岩手県奥州市）　胆沢ダム下流

所要時間：約1時間半

料金：4,500円、7,500円

開催期間：ー

拠点施設：Club Frog's（クラブフロッグス）奥州ベース（市管理のつぶ沼園地キャンプ場敷地内か）

（水沢駅から車で40分、水沢江刺駅から車で45分）

Instagram　フォロワー279人

◆　その他

・SUP（ツアー、ヨガ）、カヌー、シャワークライミングのツアーあり

◻　A'GROVE（エイグローヴ）

https://clubfrogs.localinfo.jp/

◆　岩木川（青森県中津軽郡西目屋村）　世界自然遺産「白神山地」の麓、津軽ダム下流

所要時間：約3時間

料金(繁忙期)：6,600円(7,700円)、
小学生以下4,400円(5,500円)

開催期間：4月下旬～11月上旬

拠点施設：西目屋村スポーツ交流センター
（弘前駅から車で30分）

◆　その他

・カヤック、ダッキーカヌーのツアーあり

・各料金には近隣の温泉施設入浴料金含む

・撮影写真無料ダウンロードサービスあり

・リピーター割引（100円）、

モンベルクラブ会員特典（りんごジュース）あり

Instagram　フォロワー262人
Facebook　いいね830件
フォロワー871人

６．その他　参考資料-2　SUP・カヌー、ラフティングの可能性　②丸森リバーアクティビティ

◻　プラゼール株式会社
https://www.prazer-service.com/

◻　丸森リバーアクティビティ
https://select-type.com/s/prazer_mra_top

◆　阿武隈川（丸森町）

メニュー：SUP、カヌー（カヤック）

所要時間：約1時間半

料金：大人4,000円、子ども2,000円

開催時期：ー

拠点施設：阿武隈ライン舟下り乗船場

カヤックと体験者をエントリー地点まで船で運搬

Instagram
フォロワー58人

NHKてれまさむね（9/13放送）で取り上げられる

◻　#うみの杜ダイビング
https://www.prazer-service.com/pds

◆　仙台うみの杜水族館 大水槽「いのちきらめくうみ」

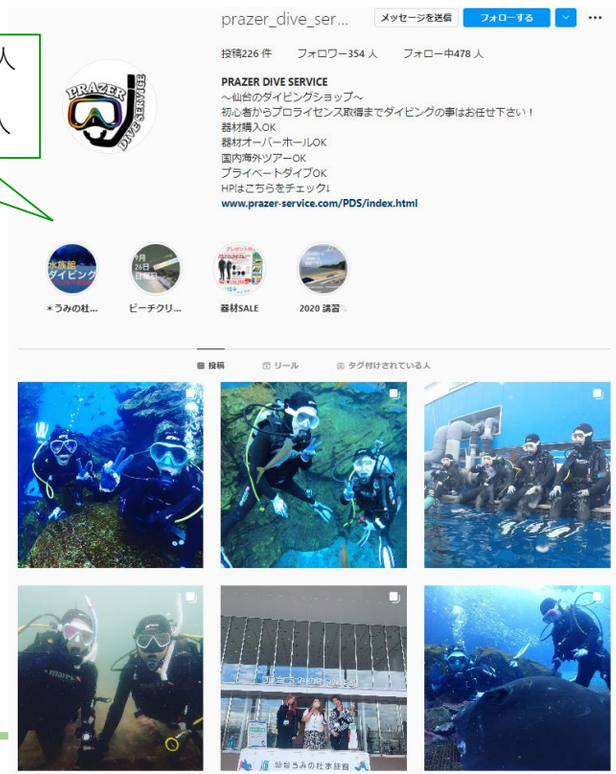
所要時間：約1時間半、約2時間

料金（貸切料金）：１名参加 15,000円（30,000円）、２～４名参加 10,000円（20,000円）
水中記念撮影あり

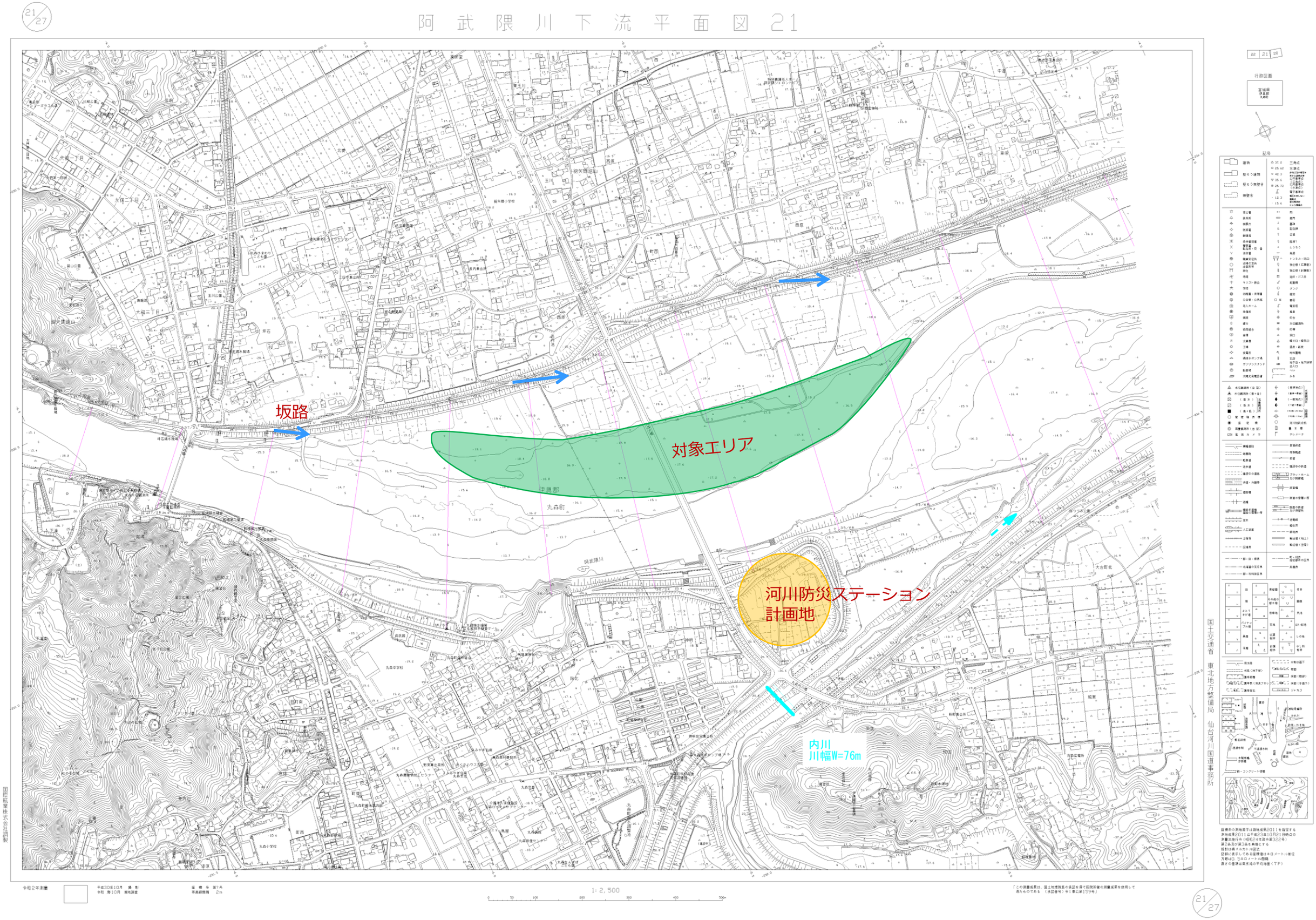
開催期間：ー

拠点施設：仙台うみの杜水族館
（JR中野栄駅からバスで7分または徒歩で15分、地下鉄荒井駅から車で20分）

Instagram　フォロワー478人
Twitter　フォロワー36人
Facebook　フォロワー129人



6．その他　参考-3　対岸の高水敷における取り組み　①対象エリア



６．その他　参考-3　対岸の高水敷における取り組み　②高水敷の樹木伐採方法とその後の利用形態

- 高水敷の樹木は、環境面の機能（生態系保全、景観形成）を有する一方、流下能力の低下、偏流や高速流の発生の要因となるなど、治水上問題がある。そのため、河川改修事業、河川維持修繕事業にて適宜伐採している。
- 管内では、伐採木の無償提供を行っている。そのほか、近年は伐採者を公募して、民間に伐採作業から持ち帰りまでお願いする事例がある。
- また、高水敷の継続的な利用により、樹木の再繁茂抑制を試みる事例もある。

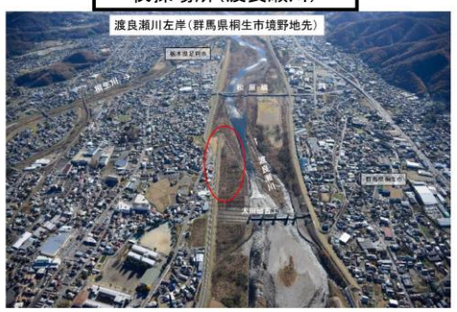
	伐採	管理	利活用	事例	特徴・留意点
1.従来	河川管理者（国）	河川管理者（国）	跡地利用はなし	一般的な方法	再繁茂の可能性有
2.公募伐採	**公募（民間）**	河川管理者（国）	樹木は持ち帰り 跡地利用はなし	千歳川、渡良瀬川等多数	再繁茂の可能性有 (工事用道路は残置)
3.民間による利用	河川管理者（国）	**占用申請者（市、民間）**	例：牧草地、ゴルフ場等	小田川等	良好な環境が維持 冠水場所での利用方法
4.民間による伐採、利用	**公募（民間）**	**占用申請者（市、民間）**	例：牧草地 ゴルフ場等	－	良好な環境が維持 冠水場所での利用方法

2.公募伐採の例（渡良瀬川、p2参照）

渡良瀬川の樹木を伐採・利用して頂ける方を募集しています

- 対象者：資格審査はありますが、個人、NPO、企業、組合等　どなたでも応募可能です。
- 利用制限：伐採した樹木は自由に利用できます。（樹木の採取料は無料です。）
- 伐採場所：桐生市境野町地先の渡良瀬川河川内
- 応募期間：平成30年9月3日から10月31日
- 伐採期間：平成30年12月1日から3ヵ月間

伐採場所（渡良瀬川）



留意事項
渡良瀬川河川事務所のHPより募集要領、留意事項をご確認のうえ、同HPに掲載している応募様式にて申請してください。
渡良瀬川河川事務所HP：
http://www.ktr.mlit.go.jp/watarase/

問い合わせ先
渡良瀬川河川事務所　管理課
TEL　0284－73－5557

3.民間による利用の例（小田川、p3，4参照）

- 延長約10km、面積約50haが牧草地として利用。
- 樹木再繁茂抑制のため、地域住民による踏み倒し、牧草生産に加え、ブルドーザによる踏み倒しを実施

【参考】河川防災ステーション計画地周辺空中写真

第２回丸森地区河川防災ステーション整備・利活用検討委員会（R4.1）国交省提供